

ちひろのことば



花を持つワンピースの少女 1969年頃

2026/9/5[SAT] ▶ 11/30[MON]

「ちひろの生まれた家」記念館
●主催●越前市観光協会●ちひろ美術館●

ちひろのことば

2026/9/5[SAT] ▶ 11/30[MON]

およばずながら、わたしも長い生命をもった、童画家でありたい
と思う。さざなみのような画風の流行に左右されず、何年も読み
つづけられる絵本を、せつにかきたいと思う。

1964年 「童画とわたし」より 「なかよしだより」(講談社)

いわさきちひろ（1918-1974）はその生涯のなかで、エッセイや日記などにさまざまなことばを残しています。そこには作品に込めた思いや、日々の暮らしのなかで感じたことなどがつづられています。

ちひろは戦争のなかで、一度は夢を見失いますが、終戦後、再び描く情熱を取り戻し、子どもの本の画家として歩み始めました。絵とことばを合わせて見ていくと、移り変わる時代のなかで、模索しながら生きるちひろの姿が浮かびます。

本展では、作品とともにちひろのことばをご紹介します。ちひろの思いを感じながらご覧ください。



スィートピーとフリーズアと少女 1963年

【ビエゾグラフとは】 ちひろ美術館では、2004年より、その時点の作品の状態をデジタル情報として記録し、保存していくアーカイブを進めてきました。同時に、そのデジタル情報をもとにして、「ビエゾグラフ」の制作をしています。

ピエゾグラフとは、耐光性のある微小インクドットによる精巧な画像表現で、ちひろの繊細な水彩表現を高度に再現しています。

手仕事



Echizen-shi
JAPAN

伝統的工芸品や越前おろしそばなど、越前市観光のお問い合わせは

越前たけふ観光案内所 ☎0778(42)5257

越前市大屋町38-5-1 北陸新幹線越前たけふ駅隣 道の駅「越前たけふ」内

観光・匠の技案内所 ☎0778(24)0655

越前市府中1丁目2-3 ハピラインふくい武生駅前センチュリープラザ内

echizen-tourism.jp (運営: 一般社団法人越前市観光協会)



越前国の中心地として栄えた武生（現・福井県越前市）のまちなか、職人町風情が漂う旧北陸道から少し東に入った路地に面し、静かに佇む古い町屋があります。そこはかつて、質・古着屋が営まれていた商家。この家の離れで、のちに日本を代表する絵本画家となる、いわさきちひろは生まれました。ちひろの母・岩崎文江は当時、武生町立実科高等女学校の教師として単身赴任していました。やがて、ちひろを身ごもると、お産のためにこの家の離れに移りました。そして1918年12月15日の雪の朝、ちひろはここで産声をあげたのです。今も往時の暮らしの面影を残し、静かな時が流れるこの町屋を、「ちひろの生まれた家」記念館として公開しています。



👤「ちひろの生まれた家」記念館

【開館時間】 10:00～16:00

【休館日】 火曜(祝日の場合は翌日)、年末年始

【入館料】一般 500円(高校生以下は無料)

※その他の料金についてはHPをご覧ください

【アクセス】(電車)ハピラインふくい武生駅より、徒歩約10分

福井鉄道たけふ新駅より、徒歩約15分

北陸新幹線越前たけふ駅より、タクシー

ご利用で約15分

(お車) 北陸自動車道武生IC・道の駅「越前たけふ」

より、約15分 ※駐車場あり

〒915-0068 福井県越前市天王町4-14

☎0778-66-7112

